可美中学校　女子ソフトボール部へ行ってきました！

『自分が本当に何者かを示すのは、
持っている能力ではなく、
自分がどのように選択をするかということなんじゃよ。』

＜ハリーポッターと秘密の部屋より
　;ダンブルドア校長先生の言葉＞
J.K.ローリング作　松山佑子訳　静山社出版

今日は秋晴れで、サイコー！な部活日和ですが、
部活開始の午後４時は、すでに夕暮れ…。

＜午後４時１５分　部室 OPEN＞

練習開始の準備です。
練習する時間を少しでもたくさん
確保するために、先生も生徒もみんなで
ボール・ベース・バットの用意をします。

＜午後４時２５分　アップ開始＞

「ボールいくよー」
「ボールいくよー」
「ボールいくよー」
「ボールいくよー」
キャッチボールをしながらのウォーミングアップです。

＜午後4時45分　ノック練習＞

先生のノックで守備練習が始まりました。

キャッチ！

とったらすぐにスローイング

＜午後5時00分　練習もノッてくる！＞

先生のノックは続きます。
ノックのボール全てを捕れるわけでは
ありません。

だから練習します。

指の骨折で練習に参加できない部員も、
練習が気になります。

誰に指図されるわけでもなく、
自分にできることを探して、
みんなを盛り上げます。

＜顧問の安藤篤喜先生＞

「何を教えないか、の選択の連続です。」

先生が指導される際、
よく考えることなのだそうです。

やり方を上手に教え、
生徒が忠実に実践できれば、
一定の成果を残せる可能性は高い。

でも、教えたことを忠実にこなすというやり方を、
生徒が望んでいるのだろうか。

「こうしたい・こうなりたい」という
情熱の引き出し役になる事が
本来の自分の役目なのではないか。

先生自身も葛藤を繰り返しながら、今に至っているそうです。

指導が中途半端にならないように、
消化不良にならないように、
ということに気をつけながら、
「教えない部分・言わない部分」も常に選択し、
その先の興味・工夫・成長を
生徒自身の手でつかみ取って欲しいのだそうです。

＜午後5時15分　すっかり薄暗く・・＞

ボールを見るのはだんだん
辛くなってきました・・

＜午後5時25分　ボールをキャッチするのはほぼ不可能に・・＞

部活が終わり、早速質問をしてみました。

本間　「ソフトボールをやっていて、
　　一番うれしかったのはどういう時？」
生徒 A「ミットにスポッとボールが納まった時！」
生徒 B「ホームスチールした時！」
生徒 C「浜岡中（強豪）の1番からピッチャーライナーをとった時！」
生徒 D「自分のお陰でみんなが
　　盛り上がった時！」
全員　「ハハハハハハ…」
本間　「ソフトの楽しさはどんなところ？」
生徒 A「チームプレイ！」
生徒 B「声を掛け合うところ！」
生徒 C「みんなで盛り上げようとするところ！」
生徒 D「走・攻・守！！」

生徒Ｅ「それって、響きが“羞恥心”っぽい！！」
本間　「羞恥心って意味知ってる？」
生徒Ｅ「恥ずかしいって事だよね。」
生徒Ｄ「意味全然違うじゃん。」
全員　「ハハハハハ…」
本間　「この中でホームラン打ったことがある人いる？」
生徒　挙手
本間　「すごい、すごい！！」　　あえて人数は明かさず（笑）

～　恒例の先生からのメッセージ　～

「いつのときも“今”が一番いいと思って欲しい。」
中学時代も良かったし、高校時代も良かったし、社会人になった今もいい。
そんな風に思いながら時間を積み重ねていく事が
「幸せ」ということだと思うのです。

先生にとって「幸せ」の色は？
「透明」かな。
幸せって後から気付くものでしょ。ああ、あの時は・・とかって。
だから、空気のような色の無い感じ。
でも、その時の充実度や、気持ちで少し色づくくらいかな。

“みんなの笑顔”を誰よりも期待し見守っている、先生の優しい眼差しを感じました。

最後に、全員が私（本間）を取り囲んであいさつをしてくれました。

私のほうをまっすぐに見る生徒さんの目から、応援せずにはいられなくなる“何か”を感じてしまいました。

（副顧問の土屋先生と一緒に）　　（取材　本間）